

Web 2.0 のサービスの波に乗り遅れるな！

## 実践 Web2.0 論

### Web2.0 を第二のネットバブルにしないための警告の書

利益に結びつく次世代 Web サービス「Web2.0」がわかる『実践 Web2.0 論 Web2.0 を第二のネットバブルにしないための警告の書』を 6 月 28 日(水)に刊行いたします。貴紙誌・サイト読者への本書ご紹介を是非ご検討いただきたくお願い申し上げます。

#### IT 業界の「バカの壁」を突き破れ！

##### Web1.0 時代を振り返る

IT バブル崩壊以前の IT 業界の歴史を解説し、そこから浮かび上がった問題点がいかにして Web 2.0 と呼ばれる様々なサービスへと発展していったのかを検証していきます。

##### 問題を乗り越えるための Web2.0

IT 業界の「バカの壁」とは、Web1.0 時代の問題点。これを突き破ったのが Web2.0 とされるサービスです。非経済的な「得」を提供し、経済的な「得」を得る。これを実践している Google、Amazon、はてな、ウィキペディアを詳しく紹介、検証して成功の理由を考えていきます。

##### 成功しているサービスの死角を突け！

Web2.0 で成功しているサービスの死角をつくることが新しいビジネスの構想の出発点です。最終章で筆者が死角となりうる点を指摘します。読者が本書から土台となりうる知識と筆者の見識を得ることで視野を広げ、Web2.0 に取って代わるような Web サービスを構想することを期待します。10 年後には Google のことを誰も覚えていない、という Web 社会ができているとおもしろいですね。

#### 本書概要



書名: 実践 Web2.0 論

Web2.0 を第二のネットバブルにしないための警告の書

著者: 川俣 晶

判型・ページ数: A5 判、208 ページ

定価: 1,995 円(税込)

ISBN: 4-7561-4766-6

発行・発売: 株式会社アスキー

書店発売日: 6 月 28 日(水)

#### 著者略歴

川俣 晶(かわまた あきら)

1964 年東京生まれ。東京農工大化学工学科卒。マイクロソフトで Windows2.1~3.0 の日本語化に従事。現在は株式会社ピーデー代表取締役。日本 XML ユーザーグループ代表。Microsoft Most Valuable Professional(MVP)。現在の主要な興味対象は Web2.0、Ajax、人が目の前の現実を認識できないメカニズム、そして東京各地の郷土資料館を巡ること。

## 目次

### 第1章 検索の巨人 Google: 勝利の方式

インターネット検索最大手と言われた Yahoo! を抜き去り、世界一の検索サービスとなった Google。果たして、この明暗はなぜ分かれたのだろうか? インターネットの構造的な欠陥を克服するために選んだ対照的な手法が、決定的な差をもたらしたと言える。そして、その差の裏には、ネットビジネスで成功するために重要なヒントが隠されている。

### 第2章 Google: 検索を超えた新サービスの衝撃

Google は、単に検索サービスとして成功したに止まらない。検索以外の多くの画期的な新しいサービスを提案することで、ネットビジネスの主導権を握り続けている。全世界が驚愕し、注目を続ける Google の新サービスを見てみよう。

### 第3章 全世界に根を張る超巨大通販サービス Amazon

優れたインターネットの通販サイトは、単に商品売るだけではない。ユーザーの嗜好を分析してその人に合ったお勧めの商品を常に提案する。そして、ユーザーが商品のレビューを書き、そのレビューをユーザーが採点することで、幅広い商品情報を集める。さらに、Amazon は、全世界に無数の支店を持ち、Amazon 以外が売れる商品の販売すら仲介する。

### 第4章 日本発の Web2.0 サービス「はてな」

日本にも、Web2.0 世代のサービスが存在する。最も成功しているのは、「はてな」と言えるだろう。いかにして、「はてな」はそこから収益を得ているのか。そして、「はてな」が精力的に提供し続ける新しいサービスにも着目してみる。

### 第5章 ボランティアで成立する人気百科事典ウィキペディア

百科事典とは権威ある偉い学者が書くものという常識は崩れた。一般の利用者が集まり、知恵を結集することでも、百科事典は成立する。無報酬のボランティアがいかにして未だに成長し続ける巨大百科事典を作り上げたのか。そして、それが既存の百科事典を超える人気を博しているかを見てみよう。

### 第6章 Web1.0 時代の終焉 1996 年体制の崩壊

IT バブルの時代、時代の寵児ともてはやされた IT ベンチャー企業や、それが集まっていた渋谷ビットバレー。しかし、最先端技術の星と見られたそれらに、最も肝心な技術力が欠落しているという批判が存在したことはあまり知られていない。同じ過ちを繰り返さないために、IT ベンチャーの惨状を赤裸々に振り返ってみよう。

### 第7章 Web1.0 時代が陥った諸問題

Web1.0 時代(1996 年体制)に始まった技術や運動には、実際には実現困難であるものや、技術的に問題を持つものが珍しくない。社会がもてはやしたそれらの事例がいかにして問題を孕んだのかを見てみよう。

### 第8章 問題を乗り越えるための Web2.0

Web1.0 時代が陥った諸問題を乗り越えるにはどうすればよいのだろうか? その答えは、実証主義と複数のミームの使い分けにある。未来の可能性を語るのではなく、今そこで動作するサービスを見せる「実証主義」はいかなる懐疑的な立場にも通用する。そして、相手の価値観、立場に合わせて語るができる「複数のミーム使い分け」は、より多くの顧客を獲得するために重要となる。

### 第9章 Web2.0 を知ろう

ここでは Web2.0 を構成する様々なトピックをアトラダムに紹介していく。Web2.0 を実現するために、これらの全てを理解して実践しなければならないわけではない。ここから、価値あるトピックを見出し、読者のあなたならではの新しい Web2.0 ネットビジネスを構想していただきたい。

### 第10章 Web2.0 企業の重要な原則(コアコンピタンス)

読者のあなたの会社が、本当に Web2.0 を担う企業になっているか、それを判定する基準となるのが重要な原則(コアコンピタンス)である。ここでは、重要な原則を構成する 7 つの項目を紹介する。

### 第11章 Web2.0 でネットビジネスを革新せよ

Web2.0 とは、成功したネットビジネスの共通点を抽出したものに過ぎない。それゆえに、決まった手順や厳格な規定などはない。今日からできることに少しずつ取り組んでみても、なんら問題はない。ここでは、そのためのヒントを紹介する。

### 第12章 新ビジネスの発想・既存サービスの死角を探れ

圧倒的な利益を目指してネットビジネスに挑戦するなら、既存の絶対的なブランドの死角を突いて成り上がることを目指すのもよいだろう。ここでは、そのためのヒントとすべく、筆者が気づいた既存サービスの死角らしきものを紹介する。